

## 人工ホダ場と林内ホダ場の春子の品質について

### 1 研究のねらい

人工ホダ場と林内ホダ場で発生するシイタケの品質の違いの有無を調べるため、林業技術センターで収穫した平成17年春子を日椎連の出荷規格をもとに品質を分類したので、結果を報告します。この調査は継続して行う予定です。

### 2 調査方法

(1) 調査方法：中低温菌A、Bの2品種について、平成11～15年春に植菌し、林内の同一条件下で管理したホダ木を各50本ずつ用いた。ホダ木は発生5年目まで使用することとした。人工ホダ場に平成16年4月に搬入し、林内での自然発生と比較するため、人工ホダ場内で自然発生したシイタケを平成17年4月18日から5月30日までに採取し乾燥したものについて、傘の直径を測定するとともに規格にあるフルイ目の大きさ別に分類し、品質を調査した。採取目安は6分開きとし、日中の気温が高くなった場合は午前と午後の2回採取した。

### 3 調査結果

採取期間と個数は次のとおりである。

品種A	採取期間	採取個数
林内	4月18日～5月30日	1,493個
人工	4月26日～5月30日	1,734個
品種B	採取期間	採取個数
林内	4月18日～5月30日	893個
人工	4月20日～5月30日	1,115個

注) 林内：林内ホダ場、人工：人工ホダ場

採取期間について、A,Bどの品種でも林内ホダ場は人工ホダ場よりも早く採取できた。

採取個数については、人工ホダ場の方が品種Aでは116%、品種Bでは125%と多い傾向であった。

品種別、発生場所別の品質調査結果を表2に示した。どんこ系については、品種Aでは、林内19%、人工ホダ場31%、品種Bでは林内30%、人工ホダ場32%と、品種Aの方で特に人工ホダ場でのどんこ収穫比率が11%高い結果となった。一方、傘が小さい「小粒」は、品種Aでは林内58%、人工ホダ場52%、品種Bは、林内44%、人工ホダ場33%と、人工ホダ場で品種Bでは小粒の割合が少ない結果となった。

表2 平成17年春子の品質調査結果

品質	品種A(林内)		品種A(人工ホダ場)		品種B(林内)		品種B(人工ホダ場)	
	個数(個)	%	個数(個)	%	個数(個)	%	個数(個)	%
小粒系(2.7～4.2cm)	860	57.6	924	53.3	399	44.7	382	34.3
どんこ系(4.3～6.3cm)	279	18.7	531	30.6	276	30.9	352	31.6
じゃみ(1～2.6cm)	267	17.9	165	9.5	77	8.6	109	9.8
バレ並(4.3～6.3cm)	52	3.5	21	1.2	67	7.5	83	7.4
バレ大(6.4cm～)	2	0.1	3	0.2	5	0.6	19	1.7
こうしん並(2.7～6.3cm)	19	1.3	44	2.5	29	3.2	54	4.8
こうしん大(6.4cm～)	11	0.7	10	0.6	6	0.7	42	3.8
こうこ系(6.4cm～)	3	0.2	36	2.1	34	3.8	74	6.6
計	1493	100.0	1734	100.0	893	100.0	1115	100.0

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先	028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第三地割 560 番地-11 岩手県林業技術センター ホームページアドレス	TEL019(697)1536 FAX019(697)1410 <a href="http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/">http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/</a>
-----	-------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------